

目 次

●口の健康・体の健康	- 1 -
●防災科学.....	- 2 -
●フランス学.....	- 3 -
●火山と災害.....	- 4 -
●キャリア概論	- 5 -
●平和講座.....	- 6 -
●トレーニングの科学	- 7 -
●キャリア概論	- 8 -
●平和講座.....	- 9 -
●酒の科学.....	- 10 -
●放射能の光と影.....	- 11 -
●暮らしと地球環境学	- 12 -
●異文化事情.....	- 13 -
●大学生のための育児学.....	- 14 -
●平和講座.....	- 15 -
●口の健康・体の健康	- 16 -
●教養とは.....	- 17 -
●情報社会と情報システム	- 18 -
●時間の科学.....	- 19 -
●解放講座.....	- 20 -
●共同授業.....	- 21 -
●解放講座.....	- 22 -
●全学乗船実習	- 23 -

2010年度 前期	曜日・校時 火3	必修選択 選択	単位数 2																																																																											
授業コード 20100590090801 授業科目/(英語名)	●口の健康・体の健康 Oral health and physical health																																																																													
対象年次 1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 講義科目	教室 [全] 102																																																																												
対象学生(クラス等) 全学部	科目分類 総合科学科目																																																																													
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 吉田 教明 / nori@nagasaki-u.ac.jp / 歯学部 歯科矯正学講座 / 095-819-7667(7669) / 9:00-19:00																																																																														
担当教員(オムニバス科目等)	吉田 教明, 林 善彦, 澤瀬 隆, 山邊 芳久, 筑波 隆幸, 鮎瀬 卓郎, 岡田 幸雄, 細矢 由美子, 飯島 洋一, 佛坂 齊社, 日高 聖, 大場 誠悟, 鶴飼 孝																																																																													
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 ねらい: 一般の人には歯科=虫歯という捉え方がなされているが、歯科口腔領域には、様々な疾患があり、その多くが全身の健康維持に影響を及ぼす。授業を通して、一般に知られていない歯科口腔領域の問題について知識を深め、口の健康が体の健康に及ぼす影響を理解する。 授業方法(学習指導法): 必要に応じ、授業に沿ったプリント資料を配布する。参考書は適宜紹介する。 到達目標: 口腔は、呼吸、摂食、咀嚼、発音、感覚、美的表現など多様な機能を有している。これらの機能の喪失による全身への影響について知識を深め、機能の維持や再建または改善する方法を広く理解すること。																																																																														
授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む) (概要) 歯科では歯のみならず、さまざまな口腔の器官を扱う。さらに、これらの器官は全身に影響を与える。ここでは、このような観点から、実際の歯およびその他の器官の機能や、最新の治療について学ぶ。																																																																														
<table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>味覚の発達と健康</td> <td>4/13</td> <td>生理</td> <td>岡田幸雄</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>矯正歯科治療と形態的变化</td> <td>4/20</td> <td>矯正</td> <td>佛坂齊社</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>歯の脱灰と再石灰化</td> <td>4/27</td> <td>予防</td> <td>飯島洋一</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>健常者の口腔管理と健康</td> <td>5/11</td> <td>1 保存</td> <td>林 善彦</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>顎関節障害・咀嚼障害</td> <td>5/18</td> <td>歯学臨床教育</td> <td>山邊芳久</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>歯の色彩・白い歯</td> <td>5/25</td> <td>小児</td> <td>細矢由美子</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>インプラントによる歯の再建</td> <td>6/1</td> <td>1 補綴</td> <td>澤瀬 隆</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>口腔領域における痛みのコントロール</td> <td>6/8</td> <td>麻酔</td> <td>鮎瀬卓郎</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>小児の成長発育と歯科治療</td> <td>6/15</td> <td>小児</td> <td>日高 聖</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>歯周病と生活習慣病</td> <td>6/22</td> <td>2 保存</td> <td>鶴飼 孝</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>最新の審美歯科治療</td> <td>6/29</td> <td>矯正</td> <td>吉田教明</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>障害者/有病者の口腔ケアと問題点</td> <td>7/6</td> <td>小児</td> <td>細矢由美子</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>口腔内疾患と薬物治療</td> <td>7/13</td> <td>薬理</td> <td>筑波隆幸</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>口腔癌：口の中にできる悪性腫瘍</td> <td>7/20</td> <td>2 口外</td> <td>大場誠悟</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>まとめ</td> <td>7/27</td> <td>矯正</td> <td>吉田教明</td> </tr> </table>				第1回	味覚の発達と健康	4/13	生理	岡田幸雄	第2回	矯正歯科治療と形態的变化	4/20	矯正	佛坂齊社	第3回	歯の脱灰と再石灰化	4/27	予防	飯島洋一	第4回	健常者の口腔管理と健康	5/11	1 保存	林 善彦	第5回	顎関節障害・咀嚼障害	5/18	歯学臨床教育	山邊芳久	第6回	歯の色彩・白い歯	5/25	小児	細矢由美子	第7回	インプラントによる歯の再建	6/1	1 補綴	澤瀬 隆	第8回	口腔領域における痛みのコントロール	6/8	麻酔	鮎瀬卓郎	第9回	小児の成長発育と歯科治療	6/15	小児	日高 聖	第10回	歯周病と生活習慣病	6/22	2 保存	鶴飼 孝	第11回	最新の審美歯科治療	6/29	矯正	吉田教明	第12回	障害者/有病者の口腔ケアと問題点	7/6	小児	細矢由美子	第13回	口腔内疾患と薬物治療	7/13	薬理	筑波隆幸	第14回	口腔癌：口の中にできる悪性腫瘍	7/20	2 口外	大場誠悟	第15回	まとめ	7/27	矯正	吉田教明
第1回	味覚の発達と健康	4/13	生理	岡田幸雄																																																																										
第2回	矯正歯科治療と形態的变化	4/20	矯正	佛坂齊社																																																																										
第3回	歯の脱灰と再石灰化	4/27	予防	飯島洋一																																																																										
第4回	健常者の口腔管理と健康	5/11	1 保存	林 善彦																																																																										
第5回	顎関節障害・咀嚼障害	5/18	歯学臨床教育	山邊芳久																																																																										
第6回	歯の色彩・白い歯	5/25	小児	細矢由美子																																																																										
第7回	インプラントによる歯の再建	6/1	1 補綴	澤瀬 隆																																																																										
第8回	口腔領域における痛みのコントロール	6/8	麻酔	鮎瀬卓郎																																																																										
第9回	小児の成長発育と歯科治療	6/15	小児	日高 聖																																																																										
第10回	歯周病と生活習慣病	6/22	2 保存	鶴飼 孝																																																																										
第11回	最新の審美歯科治療	6/29	矯正	吉田教明																																																																										
第12回	障害者/有病者の口腔ケアと問題点	7/6	小児	細矢由美子																																																																										
第13回	口腔内疾患と薬物治療	7/13	薬理	筑波隆幸																																																																										
第14回	口腔癌：口の中にできる悪性腫瘍	7/20	2 口外	大場誠悟																																																																										
第15回	まとめ	7/27	矯正	吉田教明																																																																										
キーワード	歯、顎関節、インプラント、審美歯科治療、咀嚼、摂食、嚥下																																																																													
教科書・教材・参考書	教科書はなく、教材は担当教員の判断で配布を行う。また、授業にて適宜、参考書などを紹介する。																																																																													
成績評価の方法・基準等	レポート 100点。レポートは毎回提出する。レポートの評価の基準は、与えられたテーマについて、適切なキーワードを用い説明できているかを判断基準とする。																																																																													
受講要件(履修条件)	なし																																																																													
本科目の位置づけ/学習・教育目標	歯科医療領域は進化を遂げ、全身への影響を見据えたものに発展している分野である。口腔領域の疾患を理解し、全身の健康に及ぼす影響を学習する。																																																																													
備考(準備学習等)	各授業の内容やプリントなどを復習する。																																																																													

2010年度 前期	曜日・校時 木1	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100569001201 授業科目/(英語名)	●防災科学 Science for Natural Disaster Reduction		
対象年次 1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 講義科目	教室 [全] 102	
対象学生(クラス等) 全学年	科目分類 総合科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 高橋 和雄 / takahasi@civil.nagasaki-u.ac.jp / 工学部1号館3階 / 095-819-2610 / 講義日の14:30-17:30			
担当教員(オムニバス科目等)	高橋 和雄, 棚橋 由彦, 岡林 隆敏, 多田 彰秀, 蔣 宇静, 中村 聖三, 西田 渉, 馬越 孝道, 坂本 麻衣子, 奥松 俊博, 杉本 知史, 鈴木 誠二		
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 ねらい: わが国では毎年のように暴風、豪雨、豪雪、高潮、地震、津波、噴火等の自然災害が発生し、人々の生命や生活を脅かしている。今科目では、自然災害に関する発生メカニズムの概論および防災・減災対策について、防災施設の整備や情報伝達・警戒避難対策の両面から教授する。これらによって、自然災害に対する知識と災害による被害を軽減するための対処法を習得することを目的とする。福岡県西方沖地震、雲仙普賢岳の噴火災害等の身近な話題を用いて、わかりやすく説明する。 授業方法(学習指導法): オムニバス方式で、各専門領域の内容を講義する。講義に当たっては、自然災害の実態や防災対策を映像や図表を用いてわかりやすく説明する。 到達目標: 地震、火山災害などの自然災害の発生の仕組みや被害の内容や自然災害への防災・減災対策を説明できる。また、災害が生じたときに備えた日頃の備えの内容を習得できる。			
授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 授業内容(概要) [概論]: 自然災害の内容・その特徴、日本の災害対策の体系、防災システムの内容を説明する。 第1回 4月15日 自然災害の特徴 高橋教授 第2回 4月22日 防災対策の体系 高橋教授 [自然災害を知る]: 代表的な自然災害の発生の仕組み、被害の様子を説明する。 第3回 5月6日 地震災害 岡林教授 第4回 5月13日 火山災害 馬越准教授 第5回 5月20日 地盤の液状化 杉本助教 第6回 5月27日 地盤災害 蔣教授 第7回 6月3日 台風災害 奥松准教授 第8回 6月10日 高潮・津波災害 多田教授 第9回 6月17日 地質・地形と災害 近藤教授 [自然災害を防ぐ]: 自然災害による被害を防ぎ、被害を小さくするための対策や個人や地域の備えを説明する。 第10回 6月24日 地震災害対策 中村准教授 第11回 7月1日 地盤災害対策 棚橋教授 第12回 7月8日 河川災害対策 鈴木助教 第13回 7月15日 水防災システムの構築 西田准教授 第14回 7月22日 リスクコミュニケーション 坂本准教授 第15回 7月29日 防災情報システム 高橋教授 [まとめ]: 災害対策の基本となる公助、共助、自助の役割分担と共助・自助の大切さを説明する。			
キーワード	自然災害、災害科学、防災工学		
教科書・教材・参考書	教科書は用いず、授業計画に沿ったプリント資料を配布する。 参考書・参考文献は講義中に適宜紹介する。		
成績評価の方法・基準等	毎回の小レポート(授業の概要と講義中の課題の取りまとめ、授業内容に対して自身の考えをまとめるコメント)を毎回10点満点で採点する。15回の平均点を10倍して成績を評価する。小レポートの提出がない場合はレポートの点が0点とする		
受講要件(履修条件)	なし		
本科目の位置づけ/学習・教育目標	地域、職場、家庭に必要な安全・安心の地域を身につけることが出来る共通の強化である。 全学部共通の安全・安心にかかわる基本的な知識と対応策を学習できる科目である。		
備考(準備学習等)	最近発生した自然災害や長崎の過去の災害について、インターネット、図書館等で調べておくとう理解しやすい。		

2010年度 前期	曜日・校時 木2	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100569001901 授業科目/(英語名)	●フランス学 French Studies		
対象年次 1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 講義科目	教室 [全] 104	
対象学生(クラス等) 全員	科目分類 総合科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 正本 忍 / masamoto@nagasaki-u.ac.jp / 環境科学部 4階 406 / 819-2742 / 金曜日 14:00~15:00			
担当教員(オムニバス科目等)	正本 忍, 井田 洋子, 大橋 絵理		
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 ねらい: 中世から現代に至るまでヨーロッパそして世界の政治や文化をリードし続けるフランスについて、基礎的かつより包括的な知識を得ることが本講義のねらいである。 授業方法(学習指導法): フランスを研究対象とする3名の教員によるオムニバス形式で行う。 到達目標: フランスの政治、経済、社会、文化、言語、歴史、伝統、地理などについて、ニュースや新聞に取り上げられる話題に抵抗なく入っていける程度の知識を得ることを目標とする。			
授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 第16回 定期試験 第1回 4月15日 フランスってどんな国? (正本) 第2回 4月22日 19世紀のフランス (大橋) 第3回 5月6日 『ボヴァリー夫人』を映画とともに読む(1) (大橋) 第4回 5月13日 『ボヴァリー夫人』を映画とともに読む(2) (大橋) 第5回 5月20日 ペタンクをしよう (正本、大橋) *雨天順延 第6回 5月27日 ペタンクをしよう (正本、大橋) *雨天順延 第7回 6月3日 パリの歴史を歩く(1) (正本) 第8回 6月10日 パリの歴史を歩く(2) (正本) 第9回 6月17日 ワインの愉しみ (正本) 第10回 6月24日 フランス映画の愉しみ(映画鑑賞) (正本、大橋) 第11回 7月1日 フランス憲法と日本国憲法 (井田) 第12回 7月8日 フランスの政治・経済事情 (井田) 第13回 7月15日 フランス社会とライシテ(政教分離) (井田) 第14回 7月22日 フランスとヨーロッパ連合 (井田) 第15回 7月29日 フランス観光案内 (正本)			
キーワード	フランス、言語、文学、文化、歴史、ライシテ、政治、経済		
教科書・教材・参考書	教科書は使用しない。参考文献(福井憲彦編『フランス史』山川出版社、2001年など)は講義中に紹介する。		
成績評価の方法・基準等	定期試験(100%)。 ※出席は受験資格の確認のためにのみ用いる。		
受講要件(履修条件)	フランス語を履修していることが望ましい。少なくとも、フランスの言語、社会、文化などに関心を持っていることが望まれる。		
本科目の位置づけ/学習・教育目標	関係する専門科目: フランス語、憲法、歴史と社会		
備考(準備学習等)			

2010年度 前期	曜日・校時 木2	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100590090901 授業科目/(英語名)	●火山と災害 Volcano and Volcanic Hazards		
対象年次 1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 講義科目	教室 [全] 201	
対象学生(クラス等) 全学部	科目分類 総合科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 馬越 孝道 / umakoshi@nagasaki-u.ac.jp / 環境科学部本館2階 / 095-819-2766 / 木曜 15:00-1700			
担当教員(オムニバス科目等)	馬越 孝道, 小原 達朗, 深見 聡, 後藤 恵之輔, 高橋 和雄, 松岡 敷充, 高山 久明, 後藤 健介, 安養寺 信夫		
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 ねらい: 日本は災害の国である。また長崎県は災害の多い県のひとつである。とくに雲仙普賢岳の火山災害は、これに伴う二次災害、復興対策などさまざまな災害の代表でもあり、学生たちがこれらの災害への取り組みを理解することは、これからの日本を担っていく上で必要な知識の一つである。 授業方法(学習指導法): 担当教員がそれぞれ2回(中には1回)の講義を担当する。テキスト、配布資料を参考として、パワーポイントやビデオの視聴覚機器を駆使し行っていく。 到達目標: 火山の定義・実際、および火山災害の種類と内容の理解を基礎として、雲仙火山災害をケーススタディに、火山災害の特徴、人間や生物・自然環境への影響、火山災害への対策と復興などを取り上げ、それぞれの理解を深める。			
授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 火山とは何かの定義から始め、世界と日本の火山の実際を知った後、火山災害の種類と内容を学ぶ。これらを基礎知識として、ケーススタディとして、長崎県の災害史上最大規模の自然災害の一つとなった、雲仙火山災害を取り上げる。この火山災害が、水産業や生物、火山植生、子供たちへどのような影響を与えたかを学び、火山災害からどのようにして復旧したか、また復興がなされたかを知る。火山には、これらの陰の面としての災害の一方に、温泉・景観などの光の面も持つことから、火山の活用についても触れる。これら授業の間に、南西諸島の火山や、地球温暖化とも関係する、火山諸島ガラパゴスのなりたちや生物進化、生物の生息状況などを話題提供として授業する。 第1回 4/15 火山とは・1990-95年雲仙普賢岳噴火(馬越) 第2回 4/22 火山災害の種類と内容(後藤(恵)) 第3回 5/6 水産業への影響(その1)(高山) 第4回 5/13 水産業への影響(その2)(高山) 第5回 5/20 子供たちへの影響(その1)(小原) 第6回 5/27 子供たちへの影響(その2)(小原) 第7回 6/3 島原大変肥後迷惑(後藤(健)) 第8回 6/10 植生の回復(後藤(健)) 第9回 6/17 火山諸島ガラパゴス(松岡) 第10回 6/24 小島嶼の火山・薩摩硫黄島(深見) 第11回 7/1 火山災害と観光振興(深見) 第12回 7/8 火山災害からの復旧・復興(高橋) 第13回 7/15 火山工学の紹介(安養寺) 第14回 7/22 火山の活用(後藤(恵)) 第15回 7/29 火山観測と予知(馬越)			
キーワード	火山、火山災害、雲仙火山災害、生物・植生、水産業、子供・健康、復旧・復興、観光		
教科書・教材・参考書	テキスト: 長崎大学「火山と災害」教育研究グループ編著:「火山ー雲仙普賢岳がもたらしたものー」長崎出島文庫(全国図書館協会優良図書) 教材: 配布資料 参考書: 長崎新聞社・後藤恵之輔:「復興の「教訓」ー「普賢岳」からよみがえった10年」小学館 土木学会:火山工学入門		
成績評価の方法・基準等	毎回提出のレポートによって成績評価をおこなう。レポート用紙は毎回授業中に配布する。レポートには、講義の概要とコメントを書くが、時には指示により、講義概要の代わりに宿題が出されることがある。		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ/学習・教育目標			
備考(準備学習等)			

2010年度 前期	曜日・校時 木5	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100590090601	●キャリア概論 Introduction to Career Development		
授業科目/(英語名)	対象年次 1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 講義科目	教室 [全] 201
対象学生(クラス等) 全学部	科目分類 総合科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 田井村 明博 / taimura@nagasaki-u.ac.jp / 環境科学部 2F・219 / 2761 / 月～木の12時05～45分(なお在室時は何時でも可)			
担当教員(オムニバス科目等)	田井村 明博, 浜 民夫, 扇 道德, 平 敏孝, 中川 正裕, 森 孝文, 法師山 克昌, 小嶋 紀博, 土山 勇, 近藤 信彦, 倉橋 和弘		
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 ねらい: 理論と実際が異なるのと同じように、大学の専門課程で学んだことが直ちに実業社会で役立つものではないが、仕事の実相、そこで働く人々のことを実践的に学んでもらい、進むべき道を考えてもらうことを目的とします。 授業方法(学習指導法): この授業は三部構成になっています。様々な分野で活躍している産業人、官庁、NPO等の社会人から、①まず、所属する業界の概要についての講義を受け、②次いで、現在、勤めている企業、官庁などで行われている多様な事業や仕事、職場の業務や仕事の種類についての講義を受け、③最後に講師の職業経歴・キャリアについての講義を受けます。 到達目標: 学園生活から社会に軟着陸するために必要な、職業や仕事のことなどの、社会人としての基礎について学ぶ。我が国における仕事の進め方は、チームで行う集団活動であることについても学ぶ。			
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 月/日(業種等) 講義内容【講師/所属】 第1回 4/15(基礎1) 学ぶことの意義、働くことの意義そして自立に向けて～ニート・フリーター研究1～【浜 民夫/若者自立支援長崎ネットワーク代表・元長崎大学教授】 第2回 4/22(基礎2) 国際化、規制緩和、産業構造の変化そして働くことの形～ニート・フリーター研究2～【浜 民夫】 第3回 5/6(製造業、金属加工業) 九州スチールセンターと造船業の現状及び大学生へのアドバイス【法師山克昌/(株)九州スチールセンター代表取締役社長】 第4回 5/13(総合人材サービス業、就職支援) 毎日コミュニケーションが行っている事業と仕事を理解する～企業・業種・職種研究～【土山 勇/(株)毎日コミュニケーションズ 西日本キャリアサポート統括 兼大阪支社就職情報事業本部企画広報部】 第5回 5/20(金融業) 中央銀行の業務内容と地域経済に果たす役割について【近藤信彦/日本銀行長崎支店長】 第6回 5/27(基礎3) 仕事と職業と産業と社会への架け橋インターンシップ【浜 民夫】 第7回 6/3(卸小売業百貨店) 浜屋百貨店の現状と百貨店の多様な業務について【森 孝文/(株)浜屋百貨店 取締役総務部長】 第8回 6/10(金融業) 地方銀行の現状及び業務内容等について【平 敏孝/(株)十八銀行取締役常務執行役】 第9回 6/17(建設コンサルタント業、IT事業) 地元企業の課題～扇精光の企業文化とブランドの確立、今、学校教育に求める学生像～【扇 道德/扇精光(株)取締役会長】 第10回 6/24(電力業) 九州電力の事業と多様な仕事と職務について【中川正裕/九州電力長崎支店長】 第11回 7/1 広告サービス業就職支援(日経就職ナビ) ディスコ(日経就職ナビ)が行っている事業と経済新聞の読み方 小嶋紀博/(株)ディスコ西部支社課長代理 第12回 7/8(投資会社) メーカーからサービス業まで、様々な分野への自己資金投資(プリンシパル・ビジネス)の展開【倉橋和弘/野村プリンシパル・ファイナンス】 第13回 7/15(サービス業、就職支援) インターネット時代の広告・情報ビジネスの現状と就職支援～リクルートが行っている事業の成り立ちと将来形【長岡賢一/チームリーダーリクナビエリアプロジェクター HRカンパニー営業統括部】 第14回 7/22(基礎4) 私たちの働く場の労働環境と労働法～格差社会と社会的事業【浜 民夫】 第15回 7/29(まとめ) 進路選択にあたって～体験談を交えて ・就職・大学院進学・その他【浜 民夫】			
キーワード	職業、仕事、進路、社会人基礎、自主自立		
教科書・教材・参考書	授業計画に沿ってパワーポイント、OHP、ビデオを使用し、プリント、資料を配付する。参考書は紹介する。		
成績評価の方法・基準等	成績評価は全15回の課題レポートの平均点を考慮して評価する。		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ/学習・教育目標			
備考(準備学習等)			

2010年度 前期	曜日・校時 金4	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100590090501 授業科目/(英語名)	●平和講座 On the Peace		
対象年次 1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 講義科目	教室 [全] 205	
対象学生(クラス等) 全学部	科目分類 総合科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 安部 俊二 / abe-s@nagasaki-u.ac.jp / 教育学部本館 6階 617 研究室 / 095-819-2309 / 水曜 5校時			
担当教員(オムニバス科目等)	安部 俊二, 舟越 耿一, 藤澤 秀雄, 岩松 繁俊, 篠崎 正人, 関口 達夫, 戸田 清		
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 ねらい: この文教キャンパスは三菱兵器製作所大橋工場の跡地であり、ここでは学徒動員令や女子挺身勤労令などによって動員された若者たちが航空機用魚雷の生産に従事中、その多くが爆死しました。 敗戦後、日本は「人間相互の関係を支配する崇高な理想を自覚し、国家再建の基礎を人類普遍の原理に求めて戦争を放棄し、平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して安全と生存を保持しよう」と決意しました。 本講座は、その決意を引き継ぎ、平和を愛し探究心に富む学生諸君の思索と生活の原点に資すべく基礎的資料と基本的な分析論理を提供しようとするものである。 授業方法(学習指導法): 各講義日ごとに、担当講師が講義に必要なプリントを用意し、講義を行う。講師によってはDVD/ビデオなどを利用する。 到達目標: 戦争の実態についての認識を深め、世界の情勢を深く理解し、基本的人権を尊重して自由と平和を愛する文化国家の建設に努める態度を身につける。			
授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 講義内容は多岐にわたるので、各担当講師が以下のようにテーマを掲げて講義する。 第1回 (4月16日): 戸田 清「長崎で平和学する」 第2回 (4月23日): 藤澤秀雄「講義目的と方法、レポート作成の説明」 第3回 (4月30日): 藤澤秀雄「自伝的昭和史(1)小学生から見た日本の戦争」 第4回 (5月7日): 藤澤秀雄「自伝的昭和史(2)戦争とは、戦場とは、そこで何が行われたか」 第5回 (5月14日): 藤澤秀雄「自伝的昭和史(3)戦時におけるアメリカ合衆国の戦争」 第6回 (5月21日): 安部俊二「100年遅れのアヘン戦争としての15年戦争(1)」 第7回 (5月28日): 安部俊二「100年遅れのアヘン戦争としての15年戦争(2)」 第8回 (6月4日): 岩松繁俊「①私の原爆被爆体験と多数の内外被爆者の惨状」「②被爆国日本の加害・被害の二重構造の論理」 第9回 (6月11日): 岩松繁俊「③真実は民衆によって語られる」 第10回 (6月18日): 関口達夫 NBC記者「長崎原爆を報道する」 第11回 (6月25日): 藤澤秀雄「冷戦終結後の戦争:イラク戦争を中心に」 第12回 (7月2日): 舟越耿一「報復の連鎖を断つことばを求めて」 第13回 (7月9日): 舟越耿一「どこからどこへ、日本の平和主義」 第14回 (7月16日): 篠崎正人「有事体制と長崎・佐世保(1)」 第15回 (7月23日): 篠崎正人「有事体制と長崎・佐世保(2)」			
キーワード	防塁、防空頭巾、高射砲、焼夷弾、米国の爆撃機(B17~B52)、枯葉剤、ナバーム弾		
教科書・教材・参考書	特定の教科書は用いないが、プリント資料を適宜配布し、またスライド・DVD/ビデオなどを利用して、講義の理解を深めるのに役立つ。最初の講義日に参考図書リストを配布する。		
成績評価の方法・基準等	出席を欠かさず受講することを重視する立場から、課題レポート(70%)、講義への取り組みの積極さ、および担当講師が課したレポートの成績(30%)で総合的に評価する。		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ/学習・教育目標			
備考(準備学習等)			

2010年度 後期	曜日・校時 月2	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100569002302 授業科目/(英語名)	●トレーニングの科学 Physical training science		
対象年次 1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 講義科目	教室	
対象学生(クラス等)	科目分類 総合科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 中垣内 真樹 / gaichi@nagasaki-u.ac.jp / 総合教育研究棟 2F 中垣内研究室 / 095-819-2089 / 月、火曜日 12:00~12:50、16:00~17:00			
担当教員(オムニバス科目等)	中垣内 真樹		
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 ねらい: 運動生理学や運動心理学など運動に関する科学的基礎知識を習得し、効果的な運動(身体)トレーニングの方法について理解・考察することがねらいである。 授業方法(学習指導法): 授業で配布する資料やプレゼンテーションによって運動に関する科学的基礎知識(運動生理学や運動心理学など)を説明する。それを基に、実際に筋力トレーニングや持久的トレーニングの方法について演習をおこなう。 到達目標: 運動生理学や運動心理学の基礎知識を習得する(説明できる)。それを基に、効果的な筋力トレーニングや持久的トレーニングプログラムを作成できるようになる。			
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 講義と演習を混合して授業をおこなう 第1回 10/4:オリエンテーション 本講義のねらい・目的などの説明 第2回 10/18:体力の概念について 第3回 10/25:効果的なウォーミングアップ方法、クーリングダウン方法について。 生理学的側面からの有効性、ストレッチングの実践方法について 第4回 11/1:持久力について、エネルギー供給機構に関する生理学的基礎 第5回 11/8:持久力について、乳酸性閾値とトレーニング方法との関係 第6回 11/15:持久力について、効果的に持久力を高めるためのトレーニングの組み立て方 第7回 11/22:実習、乳酸性閾値の簡易測定方法 コンコーニテストの実施 第8回 11/29:実習 トレーニング方法の実際、インターバルトレーニング、レペティショントレーニング、LSDの実施 第9回 12/6:筋力について 筋収縮に関する生理学的基礎効果的に筋力を高めるためのトレーニングの組み立て方 第10回 12/13:筋力について、筋肥大型、筋力型、パワーアップ型のトレーニング方法について 第11回 12/20:効果的に筋力を高めるためのトレーニングの組み立て方 第12回 1/17:実習 自重での筋力トレーニングの負荷の調整法 第13回 1/24:運動心理学についての基礎知識 第14回 1/31:メンタルトレーニングの方法について 第15回 2/7:まとめ			
キーワード			
教科書・教材・参考書	とくに使わない 授業での資料やパワーポイントでのプレゼンテーション資料を使用		
成績評価の方法・基準等	運動に関する基礎知識の習得について、毎回の授業で小テストでの理解度、実習時のレポートの内容の充実度、総合テストでの理解度を総合して評価する。 小テスト 30%、実習のレポート 30%、総合テスト 30%、授業への積極的な参画 10%とする		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ/学習・教育目標			
備考(準備学習等)			

2010年度 後期	曜日・校時 月4	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100590090602 授業科目/(英語名)	●キャリア概論 Introduction to Career Development		
対象年次 1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 講義科目	教室 [全] 201	
対象学生(クラス等) 全学部	科目分類 総合科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 田井村 明博 / taimura@nagasaki-u.ac.jp / 環境科学部 2F-219 / 2761 / 月～木の12時05～45分(なお在室時は何時でも可)			
担当教員(オムニバス科目等)	田井村 明博, 浜 民夫, 小嶋 紀博, 土山 勇, 黒田 正彦		
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 ねらい: 皆それによって、「自分は大学で何を学び何を研究し、将来それをどう活かすか」を思考し、自己実現、自己完成に向けての切掛となるヒントを得ることを目的とする。 授業方法(学習指導法): この授業では、最前線で活躍している官庁人や産業界やNPOそして就職支援企業の講師が、経験、体験等に基づき、企業や官庁、仕事や職業を取り巻く、業界事情や経済環境そして労働法制やその考え方についての講義を行う。 到達目標: 皆さんはやがて職業を持ち、社会的にも経済的にも自立して、職業生涯を送ることになる。学園生活から社会に軟着陸するために必要な、職業や仕事のことなどの、社会人としての基礎について学ぶ。			
授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む) *1: 若者自立支援長崎ネットワーク代表・元長崎大学環境科学部教授 *2: (株)リクナビエリアプロデューサーHRカンパニー営業統括部 *3: 長崎労働局局長 *4: (株)ディスコ西部支社課長代理 *5: (株)毎日コミュニケーションズ西日本キャリアサポート統括兼大阪支社就職情報事業本部企画広報部 月/日 講義内容【講師名】 第1回 10/4 仕事とは、何故就職するのか、仕事に就くことの意義～ニート・フリーター研究～【浜 民夫*1】 第2回 10/18 企業が求める人材【長岡賢一 *2】 第3回 10/25 「働く」とは何か～公務の仕事から考える【黒田正彦*3】 第4回 11/1 企業と職業【小嶋紀博*4】 第5回 11/8 国際化・規制緩和時代に企業や組織をどう判断するか、視野を広げる方法【土山 勇*5】 第6回 11/15 労働法制～労働者は法によりどのように護られているか【黒田正彦】 第7回 11/22 仕事や職業や産業のことを知ろう～社会への架け橋インターンシップで見てみよう～【浜 民夫】 第8回 11/29 全般を振り返っての意見交換会【浜・長岡小嶋・土山】 第9回 12/6 自分に合った企業や職業の選択基準【長岡賢一】 第10回 12/13 地方の時代を迎え～地元産業・地元企業の研究【小嶋紀博】 第11回 12/20 自己分析(求職活動スケジュール全体から知る、早期の自己理解の重要性)【土山 勇】 第12回 1/17 産業情報、企業情報の研究方法【長岡賢一】 第13回 1/24 多様化する採用方法、大卒の採用状況と今後の計画【小嶋紀博】 第14回 1/31 自己表現(今後様々な場面で求められる自己アピール・様々な立場の人から学ぶ)【土山 勇】 第15回 2/7 まとめ【浜 民夫】			
キーワード	職業、仕事、進路、社会人基礎、自主自立		
教科書・教材・参考書	授業計画に沿ってパワーポイント、OHP、ビデオを使用し、プリント、資料を配付する。参考書は紹介する。		
成績評価の方法・基準等	成績評価は全15回の課題レポートの平均点を考慮して評価する。		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ/学習・教育目標			
備考(準備学習等)			

2010年度 後期	曜日・校時 火3	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100590090502 授業科目/(英語名)	●平和講座 On the Peace		
対象年次 1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 講義科目	教室 [全] 102	
対象学生(クラス等) 全学部	科目分類 総合科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 安部 俊二 / abe-s@nagasaki-u.ac.jp / 教育学部本館6階617研究室 / 095-819-2309 / 水曜5講時			
担当教員(オムニバス科目等)	安部 俊二, 舟越 耿一, 冨塚 明, 戸田 清, 藤澤 秀雄, 葛西 よう子, 小峰 秀孝		
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 ねらい: この文教キャンパスは三菱兵器製作所大橋工場の跡地であり、ここでは学徒動員令や女子挺身勤労令などによって動員された若き男女が航空機用魚雷の生産に従事中、原爆によって、その多くが爆死しました。 敗戦後、日本は「人間相互の関係を支配する崇高な理想を自覚し、国家再建の基礎を人類普遍の原理に求めて戦争を放棄し、平和を愛する諸国民の公正と信義を信頼して安全と生存を保持しよう」と決意しました。 本講座は、その決意を受け継ぎ、平和を愛し、探究心に富む学生諸君の思索と生活の原点に資すべく基礎的資料と基本的な分析論理を提供しようとするものである。 授業方法(学習指導法): 各講義日ごとに、担当講師が講義に必要なプリントを用意し、講義を行う。講師によってはDVD/ビデオなども利用する。 到達目標: 戦争の実態についての認識を深め、世界の情勢を深く理解し、基本的人権を尊重して自由と平和を愛する文化国家の建設に努める態度を身につける。			
授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 講義内容は多岐にわたるので、以下のように各講師がテーマを掲げて講義する。 *11月30日は、被爆体験講話を予定しています。 **特別レポート作成については、藤澤秀雄(電話:095-882-5954)まで 第1回 (10月5日): 戸田 清「長崎で平和学する」 第2回 (10月12日): 藤澤秀雄「講義の目的・方法、レポート作成の要領」 第3回 (10月19日): 舟越耿一「報復の連鎖を断つことばを求めて」 第4回 (10月26日): 舟越耿一「どこからどこへ、日本の平和主義」 第5回 (11月2日): 藤澤秀雄「自伝的昭和史①小学生から見た日本の戦争」 第6回 (11月9日): 藤澤秀雄「自伝的昭和史②戦争とは、戦場とは、そこで何が行われたか」 第7回 (11月16日): 藤澤秀雄「自伝的昭和史③戦時におけるアメリカ合衆国の戦争」 第8回 (11月30日): 小峰秀孝「ナガサキを生き抜く: 私の被曝・被曝後体験」 第9回 (12月7日): 戸田 清「核兵器と劣化ウラン兵器」 第10回 (12月14日): 戸田 清「ベトナム枯葉作戦、直接的暴力、構造的暴力、文化的暴力」 第11回 (12月21日): 西日本新聞記者「長崎原爆を報道する」 第12回 (1月11日): 葛西よう子「戦争と女性①戦争被害者としての女性: 慰安婦、従軍慰安婦、勤労動員、戦争未亡人、出征中の妻②戦争加害者としての女性: 愛国・国防婦人会の戦争協力、参政権運動女性の国家意識と戦争協力」 第13回 (1月18日): 葛西よう子「戦争と女性③戦争遂行のための国家の女性観: 第二次世界大戦からコソヴォ、アフガニスタンまで④ジェンダーの視点から戦争と国家を考える」 第14回 (1月25日): 冨塚 明「被爆地長崎から『ミサイル防衛』を考える」 第15回 (2月1日): 冨塚 明「日米安保の現段階」			
キーワード			
教科書・教材・参考書	特定の教科書は用いないが、プリント資料を適宜配布し、またDVD/ビデオやスライドなどを利用して講義の理解を深めるのに役立てる。 最初の講義日に参考図書リストを配布する。		
成績評価の方法・基準等	講義課題への積極的な取り組みを重視する立場から、課題レポート(70%)、講義への貢献度及び担当講師が課したレポートの成績(30%)で総合的に評価する。		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ/学習・教育目標			
備考(準備学習等)			

2010年度 後期	曜日・校時 火5	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100569001601 授業科目/(英語名)	●酒の科学 Science of Alcoholic Beverages		
対象年次 1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 講義科目	教室 [全] 201	
対象学生(クラス等)	科目分類 総合科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 上江田 一雄 / kazuou@nagasaki-u.ac.jp / (095)819-2744 / 特別に設けませんので, 前もって電話でアポイントメントをとってから入室してください。			
担当教員(オムニバス科目等)	上江田 一雄, 高橋 正克, 林田 雅希, 姫野 順一, 池田 幸恵, 才津 祐美子, 松田 雅子		
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 ねらい: 百薬の長ともいわれる酒ですが, 酒の一气飲みで命を絶つ若者が後を絶ちません。この講義では酒を理解し, かつ, 酒が心身に与える影響を学んで, 成人になって酒をおいしく味わうようになることがねらいです。 授業方法(学習指導法): 通常の講義型式で行います。 到達目標: 酒を理解すること, および酒の心身に与える影響を理解することです。			
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 酒について多面的な視点から講義します。 第1回 10月 5日 酒とは一概説— (上江田) 第2回 10月12日 清酒 (上江田) 第3回 10月19日 焼酎・白酒 (上江田) 第4回 10月26日 ワイン (上江田) 第5回 11月 2日 ビール・ウイスキー (上江田) 第6回 11月 9日 酒の生化学 (上江田) 第7回 11月16日 日本文学におけるお酒 (池田) 第8回 11月30日 酒と薔薇の英米文学 (松田) 第9回 12月 7日 薬としてのアルコール (高橋) 第10回 12月14日 アルコールの薬理学 (高橋) 第11回 12月21日 急性アルコール中毒 (林田) 第12回 1月11日 未定 第13回 1月18日 酒の民俗学 (才津) 第14回 1月25日 焼酎造りとまちづくり (姫野) 第15回 2月 1日 酒を楽しく飲むには (上江田)			
キーワード	酒, 清酒, 焼酎, ワイン, ビール, ウイスキー, 白酒, 文学, 薬理, 微生物, 健康, 民俗学, まちづくり		
教科書・教材・参考書	教科書は使用しません。随時, 視聴覚機器やプリントを使います。		
成績評価の方法・基準等	毎回のレポート(100%)で評価します。		
受講要件(履修条件)	ありません。		
本科目の位置づけ/学習・教育目標	ありません。		
備考(準備学習等)	ありません。		

2010年度 後期	曜日・校時 水1	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100569000401 授業科目/(英語名)	●放射能の光と影 Radioactivity influence on the human society		
対象年次 1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 講義科目	教室 [全] 430	
対象学生(クラス等)	科目分類 総合科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 富塚 明 / / 環境科学部 3F / 819-2767 / 火曜日 14:00~16:00			
担当教員(オムニバス科目等)	富塚 明, 上谷 雅孝, 高辻 俊宏, 三根 真理子, 戸田 清		
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 ねらい: 自然現象として存在する「放射能」について、科学的知識を身につけると同時に、それが社会に及ぼしている「光と影」の現実をとらえる。 授業方法(学習指導法): 5人の教員がそれぞれの専門分野からみた「放射線・放射能」について解説する。 到達目標: 放射線と放射能の基本的な性質を理解できる。 放射線と核エネルギーの利用方法を理解できる。 放射線・放射能が社会に及ぼしている影響を理解できる。			
授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む) はじめに放射能と核エネルギーの発見と放射線被ばくの認識の発展、世界各地で起きている放射線被害を通して講義の全体像を解説する。そのうえで、放射線・放射能の基本的な性質とその利用の現状を解説する。あわせて核エネルギーの利用として核兵器と原子力発電の仕組みを解説する。また放射線の生命に与える影響をふまえたうえで、実際に起こされた原爆被害とチェルノブイリ原発事故の犠牲者の実情にせまる。さらに子々孫々までツケを求める高レベル放射性廃棄物の処理処分の現状、さらに核兵器の軛から脱却してウランを直接利用せず、プルトニウムや放射性廃棄物をほとんど生成しないといわれるトリウム発電炉の可能性についても解説する。 第1回 10月6日 オリエンテーション(富塚) 第2回 10月13日 原子力開発と社会的格差(戸田) 第3回 10月20日 放射能の物理(富塚) 第4回 10月27日 自然放射能と人工放射能(富塚) 第5回 11月10日 放射線の医療への応用(上谷) 第6回 11月17日 RIとその利用1(高辻) 第7回 11月24日 RIとその利用2(高辻) 第8回 12月1日 RIとその利用3(富塚) 第9回 12月8日 核エネルギーの利用と核兵器開発(富塚) 第10回 12月15日 放射線の人体への影響(三根) 第11回 12月22日 原爆後障害(三根) 第12回 1月12日 原子力発電のしくみ(富塚) 第13回 1月19日 核燃料サイクルと放射性廃棄物(富塚) 第14回 1月26日 チェルノブイリで起きたこと(三根) 第15回 2月2日 人類と原子力(富塚)			
キーワード			
教科書・教材・参考書	教科書は使用しない。適宜、プリントの配付をする。 全体の参考書: 安齋育郎『放射能 そこが知りたい』かもがわ出版		
成績評価の方法・基準等	毎回提出する「講義概要」(70%)、教員を指定して提出する「最終レポート」(30%)		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ/学習・教育目標			
備考(準備学習等)			

2010年度 後期	曜日・校時 水4	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100569001401 授業科目/(英語名)	●暮らしと地球環境学 Human Life and Environmental Problems		
対象年次 1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 講義科目	教室 [全] 201	
対象学生(クラス等)	科目分類 総合科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスマワー 上江田 一雄 / kazuoru@nagasaki-u.ac.jp / (095)819-2744 / 特別に設けませんので、前もって電話でアポイントメントをとってから来室してください。			
担当教員(オムニバス科目等)	上江田 一雄, 後藤 恵之輔, 後藤 健介		
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 ねらい: この地球には人間のみならず生物、植物等が生息しており、互いに影響しあって生存している。その地球が危機に瀕している。温暖化、オゾン層の破壊、砂漠化等の地球環境問題によってである。しかし、地球はこのような地球規模のものだけでなく、ゴミ問題等の地域の環境問題によっても次第に汚染されてきている。本授業では、これら環境問題を地球かつ地域規模で学び、暮らしの中でどう対処していけばよいのかを考える。 授業方法(学習指導法): 授業は、テキストを中心として、パワーポイント、OHP、スライド、ビデオの視聴覚機器を駆使し、配布資料を時には利用しながら、行っていく。 到達目標: 地球温暖化などの地球規模の環境問題、ゴミ、地下水汚染などの地域の環境問題について、それらが決して遠い存在でなく身近な問題であるとして学ぶとともに、それらに暮らしの中でどう対処していけばよいのか、さらに生物の生息する環境をどのように再生、創造すればよいのか、方法等を身につけられるようにしたい。			
授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 最近の環境問題に関する話題を題材として、環境問題が地球規模であれ、地域規模であれ、我われの「身近な」問題であることを認識することから講義を始める。 地球環境問題として地球温暖化、酸性雨、砂漠化、熱帯雨林の減少、野生生物種の減少、オゾン層の破壊、海洋汚染を取り上げ、地域環境問題として自然災害、水質汚染、地盤・地下水汚染、ゴミ問題を扱って、これらを地球環境問題と絡めながら論じる。さらに都市の人口爆発、アスベスト問題、感染症も、最近の環境問題として述べる。 これら環境問題はややもとすればマイナス思考になりがちだが、このことを考慮しながら、プラス思考のこととして生物生息環境の保全・再生・創造に関するビオトープ、近・多自然型川づくり、エコロード、ミティゲーションを講義する。 第1回 10月 6日 オリエンテーション(最近の環境問題に関する話題から)(後藤・上江田) 第2回 10月13日 地球温暖化(後藤) 第3回 10月20日 ヒートアイランドとエルニーニョ現象(後藤) 第4回 10月27日 自然災害(後藤) 第5回 11月10日 酸性雨(後藤) 第6回 11月17日 砂漠化、熱帯雨林の減少、日本の植生(後藤) 第7回 11月24日 野生生物種の減少、生物多様性(後藤) 第8回 12月 1日 ビオトープ(その1) 生物生息環境の保全・再生・創造(後藤) 第9回 12月 8日 ビオトープ(その2) 近自然型川づくり、多自然型川づくり(後藤) 第10回 12月15日 ビオトープ(その3) エコロード、ミティゲーション(後藤) 第11回 12月22日 オゾン層の破壊(後藤) 第12回 1月12日 海洋汚染、水質汚染、地盤・地下水汚染(後藤) 第13回 1月19日 ゴミ問題、都市の人口爆発(後藤) 第14回 1月26日 アスベスト問題、感染症(後藤) 第15回 2月 2日 循環・共生型社会(上江田)			
キーワード	地球環境問題、地域環境問題、生物生息環境の再生・創造、都市問題、アスベスト、感染症		
教科書・教材・参考書	教科書: 後藤恵之輔・後藤健介『暮らしと地球環境学』(電気書院、2,600円) 教材: 配布資料		
成績評価の方法・基準等	毎回提出のレポートによって成績評価を行う。 レポートには、講義の概要とコメントを書くが、時には指示により、講義概要の代わりに宿題が出されることがある。		
受講要件(履修条件)	なし		
本科目の位置づけ/学習・教育目標	関連する全学教育の科目として、「火山と災害」(1年前期)があるので、受講しておくことよい。		
備考(準備学習等)	「21世紀は環境の世紀」と言われるほど、世界や日本の環境問題が毎日のニュースに取り上げられることが多いので、日ごろの新聞・テレビのニュースに気をつけること。		

2010年度 後期	曜日・校時 水5	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100569002101 授業科目/(英語名)	●異文化事情 Language and Culture		
対象年次 1年,2年,3年,4年	講義形態 講義科目	教室 [全] 102	
対象学生(クラス等) 全学部学生	科目分類 総合科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィシアワー 西原 俊明 / 各教員の別の授業を参照のこと / 各教員の別の授業を参照のこと / 各教員の別の授業を参照のこと / 各教員の別の授業を参照のこと			
担当教員(オムニバス科目等)	西原 俊明,小笠原 真司,劉 卿美,楊 暁安,大橋 絵理,RUHL,DAWN MICHELE,ウィリアム コリンズ,仲井 幹也		
授業のねらい/授業方法(学習指導演法)/授業到達目標 ねらい:この授業では、各外国語(英語・フランス語・ドイツ語・中国語・韓国語)の授業を補う異文化事情について講義する。具体的には、各言語に影響を与えている文化的側面にふれる。また、文学を通して垣間見える文化的側面や制度的側面にもふれる。各授業担当者が専門とする領域から特に文化的側面に光をあてて講義をしていく。 授業方法(学習指導演法):様々なソースを利用した教材を作成し、その資料等をもとに講義を行う。各言語表現に関わるキーワードを抽出し、そのキーワードから言語の特徴やその言語を取り巻く文化的側面について理解を深める。また、適宜、理解をふかめるためにディスカッションを行う場合もある。 到達目標:この講義をと通して、欧米言語、アジア圏の言語(特に、中国語・韓国語)を取り巻く文化的側面を理解することができる。また、日本の文化との比較によって、自国文化の特徴に関してさらに理解を深めることができる。			
授業内容(概要)/授業内容(毎週の授業内容を含む) この授業では、各外国語(英語・フランス語・ドイツ語・中国語・韓国語)の授業を補う異文化事情について講義する。具体的には、各言語に影響を与えている文化的側面にふれる。また、言語表現、習慣、文学、音楽、芸術を通して垣間見える文化的側面等にもふれる。各授業担当者が専門とする領域から特に文化的側面に光をあてて講義をしていく予定である。さらに、ディスカッションを通して、理解を深める。 第1回 10/6:英語表現に見られる文化的側面(1) 担当者:西原 広告コピーやイメージスキーマの類似点・相違点等を考察する。 第2回 10/13:アメリカ文化事情(1) 担当者:コリンズ 物質的側面、非物質的側面からアメリカ文化を考察する。 第3回 10/20:アメリカ文化事情(2) 担当者:コリンズ アメリカ文化と日本文化との比較(プレゼンテーションを含む)を行う。 第4回 10/27:カナダ文化事情(1) 担当者:ルール カナダの文化・習慣等について講義を行う。(カナダ人のプライドについて) 第5回 11/10:カナダ文化事情(2) 担当者:ルール カナダの文化・習慣等について講義を行う。(カナダ人のコンプレックスについて) 第6回 11/17:英語圏文化事情(1) 担当者:小笠原 英語表現とスポーツとの関係を考察する。また、アメリカ文化とイギリス文化との違いにもふれる。 第7回 11/24:フランス文化事情(1) 担当者:大橋 他国の影響を受けたフランスの地方、及びフランスの海外県の言語と文化について考察する。 第8回 12/1:フランス文化事情(2) 担当者:大橋 フランスにおける文学、絵画、映像を通しての女性の身体文化史について考察する。 第9回 12/8:ドイツ文化事情(1) 担当者:仲井 「魔的な力、超自然的な力」Damonieに焦点を当て、文学、絵画、音楽、映画などのジャンルでそれがどのように具体化されているかを考察する。 第10回 12/15:ドイツ文化事情(2) 担当者:仲井 「魔的な力、超自然的な力」Damonieに焦点を当て、文学、絵画、音楽、映画などのジャンルでそれがどのように具体化されているかを考察する。 第11回 12/22:中国語事情(1) 担当者:楊 中国語の語音・漢字と中国文化:語音と漢字から中国の風俗、習慣、文学、芸術などを考察する。 第12回 1/12:中国語事情(2) 担当者:楊 中国語の語彙・文法と中国文化:語彙と文法から中国の社会制度、思想、観念、価値観、道徳標準などを考察する。 第13回 1/19:韓国語事情(1) 担当者:劉 漢字と韓国語・韓国語:韓国語の単語の約7割は、漢字語。しかし韓国語では現在漢字がほとんど使われていません。その不思議な漢字と韓国語との関係について見ていきます。 第14回 1/26:韓国語事情(2) 担当者:劉 英語と韓国語・韓国語:人口が日本の3分1しかない韓国。しかしアメリカへの留学生数は日本を遥かに抜いています。その異様にさえ思える英語への熱い思いについて見ていきます。 第15回 2/2:英語圏文化事情(2)、及びまとめ 担当者:小笠原・西原:英語表現に見られる社会言語学的規則、英語の女性語、文体等について考察する。			
キーワード	異文化事情、文化と言語、社会言語学的ルール		
教科書・教材・参考書	各教員が適宜、授業の中で紹介する。		
成績評価の方法・基準等	Review Test、レポート、授業参加状況を総合的に評価する。Review Test、又はレポート(70%) 授業での積極的参加状況(20%)課題(10%)		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ/学習・教育目標	各言語の授業内容を補完する内容を取り扱う。		
備考(準備学習等)	必要に応じ、適宜、情報ソースのURL情報を提供する。		

2010年度 後期	曜日・校時 木3	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100569002201 授業科目/(英語名)	●大学生のための育児学 Parenting Education for university students		
対象年次 1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 講義科目	教室	
対象学生(クラス等) 選択科目:「全学部」	科目分類 総合科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 大石 和代 / k-oishi@nagasaki-u.ac.jp / 医学部保健学科 5階大石研究室 / 819-7980 / k-oishi@nagasaki-u.ac.jp			
担当教員(オムニバス科目等)	大石 和代, 中尾 優子, 鶴崎 俊哉, 荒木 美幸, 森藤 香奈子, 山地 弘起, 大井 久美子, 柳田 泰典		
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 ねらい: 現代社会における育児支援の必要性を理解し、育児に関する知識・技術について学ぶ。 授業方法(学習指導法): オムニバスによる講義を行う。 到達目標: 育児及び育児支援の必要性について説明できるようにする。 育児技術を活用できるようにする。 おもやいキャンパスサポートへの関心をもてるようにする。			
授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 講義の前半(第1~7回)では男女共同参画社会、ワーク・ライフ・バランス、少子化社会等、育児を取り巻く現状及び具体的な施策等について紹介する。 講義の後半(第8~15)回では、胎児・乳幼児の持つ能力及び心身の発育・発達について紹介し、具体的な育児技術について学ぶ機会を持つ。 第1回 10/7:男女共同参画社会という社会的理念の歴史的背景 第2回 10/14:働き方の変革ーワーク・ライフ・バランスー 第3回 10/21:子育てと夫婦関係 第4回 10/28:子どもたちのライフハザード 第5回 11/4:妊娠・出産を取り巻く社会環境 第6回 11/11:育児に困窮する母親たちの存在 第7回 11/18:育児支援施策(おもやいキャンパスサポートを含む) 第8回 11/25:胎児の能力 第9回 12/2:新生児の能力 第10回 12/9:乳幼児の心の発育・発達 第11回 12/16:乳幼児のからだの発育・発達 第12回 1/6:絵本の読み聞かせ 第13回 1/13:乳児のための育児技術(抱っこ、オムツ交換、授乳、ベビーマッサージ等) 第14回 1/20:幼児のための育児技術(着替え、手洗い、歯磨き、食事・排泄の世話等) 第15回 1/27:乳幼児のための育児技術(応急手当等)			
キーワード	男女共同参画社会、おもやいキャンパスサポート、育児支援、育児技術		
教科書・教材・参考書	配布資料		
成績評価の方法・基準等	学習への取り組み状況 50% 課題レポート 50%		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ/学習・教育目標			
備考(準備学習等)			

2010年度 後期	曜日・校時 木4	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100590090503 授業科目/(英語名)	●平和講座 On the Peace		
対象年次 1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 講義科目	教室 [全] 227	
対象学生(クラス等) 全学部	科目分類 総合科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 安部 俊二 / abe-s@nagasaki-u.ac.jp / 教育学部本館6階 617 研究室 / (095) 819-2309 / 水曜5 講時			
担当教員(オムニバス科目等)	安部 俊二, 葉柳 和則, 三根 眞理子, 藤澤 秀雄, 西岡 由香, 高橋 眞司, 安井 幸子, 戸田 清		
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 ねらい: この文教キャンパスは三菱兵器製作所大橋工場の跡地であり、ここでは学徒動員令や女子挺身勤労令などによって動員された若き男女が航空機用魚雷の生産に従事中、原爆によって、その多くが爆死しました。 敗戦後、日本は「人間相互の関係を支配する崇高な理想を自覚し、国家再建の基礎を人類普遍の原理に求めて戦争を放棄し、平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して安全と生存を保持しよう」と決意しました。 本講座は、その決意を受け継ぎ、平和を愛し探究心に富む学生諸君の思索と生活の原点に資すべく基礎的資料と基本的な分析論理を提供しようとするものである。			
授業方法(学習指導法): 各講義ごとに、担当講師が講義に必要なプリントを用意し、講義を行う。講師によってはビデオ・DVD・スライドなども利用する。 到達目標: 戦争の実態についての認識を深め、世界の情勢を深く理解し、基本的人権を尊重して自由と平和を愛する文化国家の建設に努める態度を身につける。			
授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 講義内容は多岐にわたるので、以下のように各講師がそれぞれテーマを掲げて講義する。 *11月25日は被爆体験講話の予定です。 *特別レポート作成に関する問い合わせは藤澤秀雄(095-882-5954)まで。			
第1回 (10月7日): 戸田 清「長崎で平和学する」 第2回 (10月14日): 藤澤秀雄「講義の目的、方法、レポート作成について」 第3回 (10月21日): 西岡由香「世界から見たナガサキ: 90分間世界一周」 第4回 (10月28日): 西岡由香「原爆とキリスト教」 第5回 (11月4日): 藤澤秀雄「自伝的昭和史①小学生から見た日本の戦争」 第6回 (11月11日): 藤澤秀雄「自伝的昭和史②戦争とは、戦場とは、そこで何が行われたか」 第7回 (11月18日): 藤澤秀雄「自伝的昭和史③戦時におけるアメリカ合衆国の戦争」 第8回 (11月25日): 安井幸子「私の被曝・被曝後体験」 第9回 (12月2日): 高橋眞司「永井隆と秋月辰一郎」 第10回 (12月9日): 高橋眞司「核時代の死と生」 第11回 (12月16日): 高橋眞司「戦争と平和: 九段階接合理論」 第12回 (1月6日): 長崎新聞記者「長崎原爆を報道する」 第13回 (1月13日): 三根眞理子「①長崎原爆と医科大学②原爆直後の調査」 第14回 (1月20日): 三根眞理子「③被爆者の健康管理」 第15回 (1月27日): 葉柳和則「被災の記憶とその継承」			
キーワード			
教科書・教材・参考書	特定の教科書は使用しないが、プリント資料を適宜配布し、またビデオ・DVD・スライドなどを利用して講義の理解を深めるのに役立つ。 最初の講義日に参考図書リストを配布する。		
成績評価の方法・基準等	講義への積極的取り組みを重視する立場から、課題レポート(70%)、講義への貢献度および担当講師が課したレポート(30%)で総合的に評価する。		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ/学習・教育目標			
備考(準備学習等)			

2010年度 後期	曜日・校時 木4	必修選択 選択	単位数 2																																																																											
授業コード 20100590090802 授業科目/(英語名)	●口の健康・体の健康 Oral health and physical health																																																																													
対象年次 1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 講義科目	教室 [全] 102																																																																												
対象学生(クラス等) 全学部	科目分類 総合科学科目																																																																													
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 吉田 教明 / nori@nagasaki-u.ac.jp / 歯学部 歯科矯正学講座 / 095-819-7667(7669) / 9:00-19:00																																																																														
担当教員(オムニバス科目等)	吉田 教明, 林 善彦, 澤瀬 隆, 山邊 芳久, 筑波 隆幸, 鮎瀬 卓郎, 岡田 幸雄, 細矢 由美子, 飯島 洋一, 佛坂 齊社, 日高 聖, 大場 誠悟, 鶴飼 孝																																																																													
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 ねらい: 一般の人には歯科=虫歯という捉え方がなされているが、歯科口腔領域には、様々な疾患があり、その多くが全身の健康維持に影響を及ぼす。授業を通して、一般に知られていない歯科口腔領域の問題について知識を深め、口の健康が体の健康に及ぼす影響を理解する。 授業方法(学習指導法): 必要に応じ、授業に沿ったプリント資料を配布する。参考書は適宜紹介する。 到達目標: 口腔は、呼吸、摂食、咀嚼、発音、感覚、美的表現など多様な機能を有している。これらの機能の喪失による全身への影響について知識を深め、機能の維持や再建または改善する方法を広く理解すること。																																																																														
授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む) (概要) 歯科では歯のみならず、さまざまな口腔の器官を扱う。さらに、これらの器官は全身に影響を与える。ここでは、このような観点から、実際の歯およびその他の器官の機能や、最新の治療について学ぶ。																																																																														
<table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>味覚の発達と健康</td> <td>10/7</td> <td>生理</td> <td>岡田幸雄</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>矯正歯科治療と形態的变化</td> <td>10/14</td> <td>矯正</td> <td>佛坂齊社</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>歯の脱灰と再石灰化</td> <td>10/21</td> <td>予防</td> <td>飯島洋一</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>健常者の口腔管理と健康</td> <td>10/28</td> <td>1保存</td> <td>林 善彦</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>顎関節障害・咀嚼障害</td> <td>11/4</td> <td>歯学臨床教育</td> <td>山邊芳久</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>歯の色彩・白い歯</td> <td>11/11</td> <td>小児</td> <td>細矢由美子</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>インプラントによる歯の再建</td> <td>11/18</td> <td>1補綴</td> <td>澤瀬 隆</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>口腔領域における痛みのコントロール</td> <td>11/25</td> <td>麻酔</td> <td>鮎瀬卓郎</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>小児の成長発育と歯科治療</td> <td>12/2</td> <td>小児</td> <td>日高 聖</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>歯周病と生活習慣病</td> <td>12/9</td> <td>2保存</td> <td>鶴飼 孝</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>最新の審美歯科治療</td> <td>12/16</td> <td>矯正</td> <td>吉田教明</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>障害者/有病者の口腔ケアと問題点</td> <td>1/6</td> <td>小児</td> <td>細矢由美子</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>口腔内疾患と薬物治療</td> <td>1/13</td> <td>薬理</td> <td>筑波隆幸</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>口腔癌：口の中にできる悪性腫瘍</td> <td>1/20</td> <td>2口外</td> <td>大場誠悟</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>まとめ</td> <td>1/27</td> <td>矯正</td> <td>吉田教明</td> </tr> </table>				第1回	味覚の発達と健康	10/7	生理	岡田幸雄	第2回	矯正歯科治療と形態的变化	10/14	矯正	佛坂齊社	第3回	歯の脱灰と再石灰化	10/21	予防	飯島洋一	第4回	健常者の口腔管理と健康	10/28	1保存	林 善彦	第5回	顎関節障害・咀嚼障害	11/4	歯学臨床教育	山邊芳久	第6回	歯の色彩・白い歯	11/11	小児	細矢由美子	第7回	インプラントによる歯の再建	11/18	1補綴	澤瀬 隆	第8回	口腔領域における痛みのコントロール	11/25	麻酔	鮎瀬卓郎	第9回	小児の成長発育と歯科治療	12/2	小児	日高 聖	第10回	歯周病と生活習慣病	12/9	2保存	鶴飼 孝	第11回	最新の審美歯科治療	12/16	矯正	吉田教明	第12回	障害者/有病者の口腔ケアと問題点	1/6	小児	細矢由美子	第13回	口腔内疾患と薬物治療	1/13	薬理	筑波隆幸	第14回	口腔癌：口の中にできる悪性腫瘍	1/20	2口外	大場誠悟	第15回	まとめ	1/27	矯正	吉田教明
第1回	味覚の発達と健康	10/7	生理	岡田幸雄																																																																										
第2回	矯正歯科治療と形態的变化	10/14	矯正	佛坂齊社																																																																										
第3回	歯の脱灰と再石灰化	10/21	予防	飯島洋一																																																																										
第4回	健常者の口腔管理と健康	10/28	1保存	林 善彦																																																																										
第5回	顎関節障害・咀嚼障害	11/4	歯学臨床教育	山邊芳久																																																																										
第6回	歯の色彩・白い歯	11/11	小児	細矢由美子																																																																										
第7回	インプラントによる歯の再建	11/18	1補綴	澤瀬 隆																																																																										
第8回	口腔領域における痛みのコントロール	11/25	麻酔	鮎瀬卓郎																																																																										
第9回	小児の成長発育と歯科治療	12/2	小児	日高 聖																																																																										
第10回	歯周病と生活習慣病	12/9	2保存	鶴飼 孝																																																																										
第11回	最新の審美歯科治療	12/16	矯正	吉田教明																																																																										
第12回	障害者/有病者の口腔ケアと問題点	1/6	小児	細矢由美子																																																																										
第13回	口腔内疾患と薬物治療	1/13	薬理	筑波隆幸																																																																										
第14回	口腔癌：口の中にできる悪性腫瘍	1/20	2口外	大場誠悟																																																																										
第15回	まとめ	1/27	矯正	吉田教明																																																																										
キーワード	歯、顎関節、インプラント、審美歯科治療、咀嚼、摂食、嚥下																																																																													
教科書・教材・参考書	教科書はなく、教材は担当教員の判断で配布を行う。また、授業にて適宜、参考書などを紹介する。																																																																													
成績評価の方法・基準等	レポート 100点。レポートは毎回提出する。レポートの評価の基準は、与えられたテーマについて、適切なキーワードを用い説明できているかを判断基準とする。																																																																													
受講要件(履修条件)	なし																																																																													
本科目の位置づけ/学習・教育目標	歯科医療領域は進化を遂げ、全身への影響を見据えたものに発展している分野である。口腔領域の疾患を理解し、全身の健康に及ぼす影響を学習する。																																																																													
備考(準備学習等)	各授業の内容やプリントなどを復習する。																																																																													

2010年度 後期	曜日・校時 木5	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100569001701 授業科目/(英語名)	●教養とは What is culture?		
対象年次 1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 講義科目	教室 [全] 104	
対象学生(クラス等)	科目分類 総合科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 上江田 一雄 / kazuou@nagasaki-u.ac.jp / / (095)819-2744 / 特別に設けませんので, 前もって電話でアポイントメントをとってから来室してください。			
担当教員(オムニバス科目等)	上江田 一雄, 高橋 正克, 岡田 佳子, 中西 こずえ, 菅原 潤, 松田 雅子		
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 ねらい: 教養とはいったい何でしょうか。教養のある人とはどんな人でしょうか。全学教育(教養教育)をなぜ学ぶのでしょうか。この科目を履修して, 共に考えましょう。 授業方法(学習指導法): 専門の異なる6名の教員が「教養とは」という内容の話題提供を行い, それを受けて学生主体の班別討議および全体討議を通して, 「教養」についての考えを深めます。 到達目標: (1) 自分自身の頭脳で考える能力を修得すること, (2) 「教養」とは何かを理解することであり, さらに, (3) 教養を身につける手がかりを会得することです。			
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 講義と討議を通じて「教養」について考えます。 なお, 受講者数によっては授業計画を変更することがあります。 第1回 10月 7日 教養とは (上江田・化学) 第2回 10月14日 班別討議 (上江田) 第3回 10月21日 教養とは (中西・生物学) 第4回 10月28日 班別討議 (上江田) 第5回 11月 4日 全体討議 (上江田) 第6回 11月11日 教養とは (松田・英米文学) 第7回 11月18日 班別討議 (上江田) 第8回 11月25日 教養とは (菅原・哲学) 第9回 12月 5日 班別討議 (上江田) 第10回 12月 9日 全体討議 (上江田) 第11回 12月16日 教養とは (岡田・高等教育学) 第12回 1月 6日 班別討議 (上江田) 第13回 1月13日 教養とは (高橋・薬学) 第14回 1月20日 班別討議 (上江田) 第15回 1月27日 全体討議 (上江田)			
キーワード	教養, 討議, 学生主体		
教科書・教材・参考書	教科書は使用しません。随時, 視聴覚機器やプリントを使います。		
成績評価の方法・基準等	毎回のレポート(100%)で評価します。		
受講要件(履修条件)	1年生が好ましい。第1回目の講義で受講者を決定しますので, 受講希望者は必ず出席してください。		
本科目の位置づけ/学習・教育目標	ありません。		
備考(準備学習等)	全体討議の規模を考慮すると, 受講者数は20名以下が好ましい。		

2010年度 後期	曜日・校時 金2	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100569002001 授業科目/(英語名)	●情報社会と情報システム Gateway to Information Resources		
対象年次 1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 講義科目	教室 [全] 229	
対象学生(クラス等)	科目分類 総合科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 丹羽 量久 / niwa@redc.nagasaki-u.ac.jp / 大学教育機能開発センター3階 / 095-819-2084 /			
担当教員(オムニバス科目等)	丹羽 量久, 藤井 美知子, 古賀 掲維		
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 ねらい: 今日の情報社会における情報システムの役割とその仕組みを理解し、また、情報の可視化技術がどのように産業の発展に貢献しているか理解する。さらに、情報社会で活躍するための各種資格について知識を修得することを目的としている。 授業方法(学習指導法): 3人の教員がオムニバス形式で講義を行う。必要に応じて、コンピュータ端末の操作を交えながら、講義を行う。 到達目標: ① 情報社会における情報システムの役割について理解する。 ② Webアプリケーションの仕組みについて理解する。 ③ 情報の可視化について理解する。 ④ 情報社会における各種資格について理解する。			
授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 第16回目 2/4 : 定期試験 第1回 10/1:ガイダンス 第2回 10/8:情報社会と情報システム(概論) 第3回 10/15:Webアプリケーションの仕組み(1) 第4回 10/22:Webアプリケーションの仕組み(2) 第5回 10/29:Webアプリケーションの仕組み(3) 第6回 11/5:Webアプリケーションの仕組み(4) 第7回 11/12:情報社会と可視化(1) 第8回 11/26:情報社会と可視化(2) 第9回 12/3:情報社会と可視化(3) 第10回 12/10:情報社会と可視化(4) 第11回 12/17:情報社会のパスポート(1) 第12回 12/24:情報社会のパスポート(2) 第13回 1/7:情報社会のパスポート(3) 第14回 1/21:情報社会のパスポート(4) 第15回 1/28:情報社会と情報システム(総括)			
キーワード	情報社会、情報システム、情報の可視化、ITパスポート		
教科書・教材・参考書	必要に応じて、授業のホームページを使って配布する。		
成績評価の方法・基準等	授業中のレポート:40%, 期末試験:60%		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ/学習・教育目標			
備考(準備学習等)			

2010年度 後期	曜日・校時 金5	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100569001501 授業科目/(英語名)	●時間の科学 Science of Time		
対象年次 1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 講義科目	教室 [全] 102	
対象学生(クラス等)	科目分類 総合科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 上江田 一雄 / kazuou@nagasaki-u.ac.jp / / (095)819-2744 / 特別に設けませんので, 前もって電話でアポイントメントをとってから来室してください。			
担当教員(オムニバス科目等)	上江田 一雄, 中西 こずえ, 菅原 潤, 田井村 明博, 姫野 順一, 馬越 孝道, 河本 和明, 富塚 明, 岡田 二郎		
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 ねらい: さまざまな分野から時間について思考することによって, 時間を総合的に捉えることです。 授業方法(学習指導法): それぞれの専門の立場から時間に関係する事柄について講義します。 到達目標: 古から哲学や自然科学において議論の対象となってきた時間について考えることにより, 総合的に思考する能力を養います。			
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 時間およびそれに関連する事柄について, それぞれの専門分野からの認識を深めます。 第1回 10月 1日 概説(上江田) 第2回 10月 8日 歴史的時間について(菅原) 第3回 10月15日 暦の歴史(富塚) 第4回 10月22日 暦と迷信(富塚) 第5回 10月29日 地球の年齢を探る試み(馬越) 第6回 11月 5日 地球の古環境と大気現象の時間(河本) 第7回 11月12日 時間生物学:動物のリズム(岡田) 第8回 11月26日 植物と時間(中西) 第9回 12月 3日 スポーツと時間(田井村) 第10回 12月10日 スポーツと時間(田井村) 第11回 12月17日 時間の経済学(姫野) 第12回 12月24日 時間の経済学(姫野) 第13回 1月 7日 化学進化(上江田) 第14回 1月21日 化学進化(上江田) 第15回 1月28日 まとめ(上江田)			
キーワード	時間, 暦, 年齢, 古環境, 寿命, 進化, 動物, 植物		
教科書・教材・参考書	教科書:ありません。 教材:随時, プリントやパワーポイントを使用します。		
成績評価の方法・基準等	毎回のレポート(100%)で評価します。		
受講要件(履修条件)	ありません。		
本科目の位置づけ/学習・教育目標	ありません。 総合的な思考力を養うことです。		
備考(準備学習等)	ありません。		

2010年度 集中(前)	曜日・校時 時間割外	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100569000701 授業科目/(英語名)	●解放講座 On Social Leveling		
対象年次 1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 講義科目	教室	
対象学生(クラス等) 全学部	科目分類 総合科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 上 藺 恒太郎 / 阿南重幸 anan@sings.jp / 教育学部2 皆// TEL : 095-819-2386 (内線) 2386 /			
担当教員(オムニバス科目等)	上 藺 恒太郎, 阿南 重幸, 藤澤 秀雄		
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 ねらい: 21世紀は「人権の世紀」ともいわれる。本講座は、部落問題を中心に今日社会におけるさまざまな諸問題を、人権の視点で考察することを目的とする。 授業方法(学習指導法): 講義形式 到達目標: 講座開設の意義を踏まえ、世界の人権状況、国内においては、部落問題・アイヌ問題・ハンセン病回復者への差別・在日外国人の諸状況を歴史的に考察し、理解を深める。			
授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 人権に関する世界及び日本の歩みを振り返り、今なお存在する日本の人権課題について、学ぶことを目的とする。人権の観点から見た部落問題、アイヌ問題、在日外国人問題、ハンセン病に係わる問題や冤罪事件等を取り上げ、とくに部落問題ではあやまった歴史観を質したい。また、地域史として、「長崎の被差別部落」を取り上げる。 なお、集中講義とし、期日を前期(8月10日～13日)後期(2月15日～18日)とする。			
授業内容 第1回 「解放講座」開設の意義について 第2回 世界及び国内における人権の歩み 第3回 冤罪について、二・三の具体的事例を中心として 第4回 冤罪について、二・三の具体的事例を中心として 第5回 部落問題と人権のいま 第6回 日本の部落問題 第7回 日本の近代化とアイヌ問題 第8回 在日外国人の「国籍条項」 第9回 ハンセン病と差別 第10回 部落の歴史を再考する(1) 第11回 部落の歴史を再考する(2) 第12回 部落の歴史を再考する(3) 第13回 部落の歴史を再考する(4) 第14回 長崎の被差別部落 第15回 授業の総括(学生諸君に書いてもらう) 第16回 定期試験			
キーワード	人権 体験 知識		
教科書・教材・参考書	テキストは用いない。プリント、資料等を配布する。 ビデオ等を使用する。		
成績評価の方法・基準等	定期試験の成績、レポート、出席状況を考慮して行う。 試験 50 レポート 40 出席 10		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ/学習・教育目標			
備考(準備学習等)			

2010年度 集中(前)	曜日・校時 時間割外	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100569001001 授業科目/(英語名)	●共同授業 Cooperation class		
対象年次 1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 講義科目	教室	
対象学生(クラス等)	科目分類 総合科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 上江田 一雄 / kazuou@nagasaki-u.ac.jp / / (095)819-2744 / 特別に設けませんので, 前もって電話でアポイントメントをとってから来室してください。			
担当教員(オムニバス科目等)	上江田 一雄		
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 ねらい: 今年度で34回を数える伝統ある授業(正式名称は第34回九州地区国立大学間合宿共同授業)です。九州地区国立大学法人の学生と教員が一堂に集まり, 寝食を共にしながら研修することによって, 学生と教員ならびに大学間の交流を深め, かつ, 同一テーマについて多面的な授業を展開することが目的です。 授業方法(学習指導法): 講義, 討議, 課外授業および学生フォーラムで行います。 到達目標: 高校まで教わることによって学んできた学生が, 知識基盤社会の担い手として学ぶ主体を体験的に自らに見出すことです。			
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) (概要) 合宿期間は, 9月2日(木)~9月5日(日)の3泊4日です。 合宿場所は, 九州地区国立大学九重共同研修所(大分県玖珠郡九重町湯坪にあつて標高約1,000mの涼しいところ)です。 メインテーマは「今 共生するために大学で何を学ぶか」, 学生フォーラムテーマは「私が共生するために学ぶこと」です。 本学の学生の募集人員は16名です。 他大学からは, 福岡教育大学(10名), 九州大学(18名), 佐賀大学(16名)および琉球大学(16名)の学生が参加します。 日程や募集等の詳細については, 4月に全学教育事務室の掲示物で確認してください。			
キーワード	自立, 共生, 学ぶ, 合宿, 国立大学間, 学生フォーラム, 事前学習会		
教科書・教材・参考書	教科書は使用しません。参考書については, 後日お知らせします。		
成績評価の方法・基準等	事前学習会および合宿共同授業での学習態度(50%), レポート(50%)で評価します。		
受講要件(履修条件)	履修希望者が多い場合は選考の上決定します。 参加費は, 交通費・宿泊費・食費込みで12,000円(予定)です。		
本科目の位置づけ/学習・教育目標	ありません。		
備考(準備学習等)	3泊4日の合宿共同授業以外に, 5月から7月上旬にかけて週1回の事前学習会を行います。		

2010年度 集中(後)	曜日・校時 時間割外	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100569000702	●解放講座 On Social Leveling		
授業科目/(英語名)	講義形態 講義科目	教室	
対象年次 1年, 2年, 3年, 4年	対象学生(クラス等) 全学部	科目分類 総合科学科目	
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 上 藺 恒太郎 / 阿南重幸 anan@sings.jp / 教育学部2 皆// TEL : 095-819-2386 (内線) 2386 /			
担当教員(オムニバス科目等)		上 藺 恒太郎, 阿南 重幸, 藤澤 秀雄	
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 ねらい: 21世紀は「人権の世紀」ともいわれる。本講座は、部落問題を中心に今日社会におけるさまざまな諸問題を、人権の視点で考察することを目的とする。 授業方法(学習指導法): 講義形式 到達目標: 講座開設の意義を踏まえ、世界の人権状況、国内においては、部落問題・アイヌ問題・ハンセン病回復者への差別・在日外国人の諸状況を歴史的に考察し、理解を深める。			
授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 人権に関する世界及び日本の歩みを振り返り、今なお存在する日本の人権課題について、学ぶことを目的とする。人権の観点から見た部落問題、アイヌ問題、在日外国人問題、ハンセン病に係わる問題や冤罪事件等を取り上げ、とくに部落問題ではあやまった歴史観を質したい。また、地域史として、「長崎の被差別部落」を取り上げる。 なお、集中講義とし、期日を前期(8月10日～13日)後期(2月15日～18日)とする。			
授業内容 第1回 「解放講座」開設の意義について 第2回 世界及び国内における人権の歩み 第3回 冤罪について、二・三の具体的事例を中心として 第4回 冤罪について、二・三の具体的事例を中心として 第5回 部落問題と人権のいま 第6回 日本の部落問題 第7回 日本の近代化とアイヌ問題 第8回 在日外国人の「国籍条項」 第9回 ハンセン病と差別 第10回 部落の歴史を再考する(1) 第11回 部落の歴史を再考する(2) 第12回 部落の歴史を再考する(3) 第13回 部落の歴史を再考する(4) 第14回 長崎の被差別部落 第15回 授業の総括(学生諸君に書いてもらう) 第16回 定期試験			
キーワード	人権 体験 知識		
教科書・教材・参考書	テキストは用いない。プリント、資料等を配布する。 ビデオ等を使用する。		
成績評価の方法・基準等	定期試験の成績、レポート、出席状況を考慮して行う。 試験 50 レポート 40 出席 10		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ/学習・教育目標			
備考(準備学習等)			

2010年度 集中(後)	曜日・校時 時間割外	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100569001101 授業科目/(英語名)	●全学乗船実習 Training Cruise for General Students		
対象年次 1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 講義科目	教室	
対象学生(クラス等) 全学部	科目分類 総合科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィシアワー 合田 政次 / goda@nagasaki-u.ac.jp / 水産学部本館3階 / 095-819-2805 / 月・金曜日 1200~1300			
担当教員(オムニバス科目等)	合田 政次		
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 ねらい: 教養特別講義「海洋と文化」で学んだ内容を、より身近な問題として実践的な視点で捉えるため、附属練習船長崎丸に乗船して航海を体験する。これらの体験により、海洋環境や海洋生態系、あるいはそれらと人間の営みを肌で感じ、より深く理解すると共に、異分野の学生が船内生活を通して、通常のキャンパスライフでは困難なコミュニケーション能力、多角的視点、協調性などを修養する。 授業方法(学習指導法): 乗船実習中に操船(舵を握り船を走らす)、海洋観測、トロール操業(魚の分類、魚体測定)、魚類の加工、ロープの結び方等の演習を行う。また、一時上陸して、水族館、魚市場等の見学を行う。 到達目標: 海洋及び船舶に慣れ、親しみ、航海・運用術、海洋観測の基礎的実習及び海・船・人間の関係について関わりを修得。また、船内での団体生活の体験により、協調性・寛容性を修得する。			
授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 海には色々な用途を持った船が動いているが、その内の練習船長崎丸は水産学部学生の実習・調査・研究のため運航されている。その船を使って船舶運航、漁労、海洋観測を行い、海洋・船への関心を深める。また、漁獲された魚がどのように人間の生活に関係を持っているか実習・見学を行う。異分野の学生同士が船内居住・生活を通してコミュニケーションを深めていく。 事前講義 I 実習の目的・概要・船内注意事項・見学施設等について 事前講義 II 船、海洋観測、トロール操業等に関する基礎知識 実習 1日目 乗船 船内ガイダンス(船内設備、注意事項等の説明)、海洋観測等 日没後プランクトン採集 2日目 天候・海況により海洋観測、トロール操業、救命艇操練、ロープの結び方等、船位測定練習等いずれかを実施する。 3日目 入港、陸上水産施設の見学 4日目 陸上水産施設見学、出港、魚類の加工 5日目 下船時のガイダンス、下船 事後講義 実習の総括、レポート課題等の説明 天候・海況によっては実習内容を大きく変更することがある。			
キーワード	練習船、海洋実習、海洋観測		
教科書・教材・参考書	事前ガイダンス、船内ガイダンスの際に資料を配付する。		
成績評価の方法・基準等	実習への取り組み状況 70% レポート 30%		
受講要件(履修条件)	受講定員は40名(希望多数の場合は、抽選による) 受講者は必ず傷害保険に加入すること。 受講にかかる費用は食費及び陸上関連施設利用料 計8000円程度。		
本科目の位置づけ/学習・教育目標			
備考(準備学習等)	乗船数日前、準備学習等は説明する。		